

校長室の窓から 10

070313 続けるということ(朝のあいさつ)

毎朝、玄関に立って子供たちの顔を見ながら挨拶することを1年間繰り返してきました。早く全校児童の名前を覚えて、子供たちのキラキラした素顔を知りたい一心で続けてきましたが、昨日の謝恩会で、改めて続けてよかったなと思わせていただきました。

6年生からもらったプレゼントに添えられた手紙には、
「校長先生が、元気に顔を見て挨拶してくれることで、ぼくも一日がんばろうと思えました」
「いつも笑顔で、ぼくは校長先生には、いい思い出しかありません」
「校長先生のおかげで、自分も恥ずかしがらずに挨拶ができるようになりました」
ということが書かれていました。

たかが挨拶。されど挨拶。

もらった手紙が嬉しくて、「これからも毎朝、元気な挨拶を頑張ろう」と思った単純な自分です。

さて、今朝玄関には生活委員の児童による「あいさつアイドル」が出発していました。アイドルになって挨拶を活性化させるなんて、なんて斬新なアイデア。

子供たちの発想には、いつも驚かせられます。

これからも、中太っ子のあいさつが
どんどん活発になりますように。



愛と信の仲よしこよし

中太閤山小学校長 堀かおり